

はしがき……………9

第一章 戦後思想は日本を読みそこねてきた……………13

一、引き裂かれた日本——大江健三郎「あいまいな日本の私」……………14  
あいまいな日本／牛と競争する蛙／「近代の超克」論のなかで／マルクス主義の経験 立場を  
変えて受けつがれ／アナクロニズムの源流

二、読まれそこないの戦争詩——吉本隆明「抒情の論理」……………17  
雑種にこそ可能性／双而神／香港落つ 「大東亜戦争」の論理を無視する モダニズムと伝  
統ノモダニズムの深層／日中戦争には反対／起て仏蘭西！／理想化する知性

三、融合論はもう沢山——丸山真男「日本の思想」……………42  
スルスルべつたりの潜入／神がかりは東西融合論／積極的融合論のしくみ／融合論も対立する

四、人権思想も家族国家論も東西融合……………51  
江戸時代の雑居性／人権思想の融合性／神道は宗教にあらず／ふたつの立憲主義／折衷が  
国是／融合か分裂か

第二章 丸山真男の歴史意識……………63

一、螺旋運動というレトリック……………64  
上昇と拡大／天皇の威信の高まり／海外膨張／突然変異説へ／突然変異の契機

二、通奏低音の正体……………74  
近代の超克／古層論の方法／神がみの血統づくり／出雲神話の纂奪 日本神話の編集思想  
／「為す」の歴史観／戦時中の日本歴史観／丸山真男の転回

三、革命思想と進化論受容……………90  
漸進か革命か／中国における進化論の衝撃／天と勝ちを争つ／日本の革命思想／日本にお  
ける進化論受容／伝統思想と入りまじり／通奏低音を探る

第三章 「近代の超克」思想の基盤……………109

一、「近代の超克」の先駆……………110

岡倉天心の思想／東洋の理想／東洋的ロマン主義／セルフオリエンタリズム 一〇世紀の芸術と政治／「近代の超克」の意味

一、大正期へ……………12

日露戦争後／産業構造の転換と噴き出る矛盾／大正デモクラシーと階級闘争／宗教新時代  
民衆生活の変貌／儒学的社会主義／土田露伴の修養書／江戸回顧／白昼との合一  
退魔を超越

二、大正生命主義は百花繚乱……………141

ふたつの生命主義哲学／宇宙の生命エネルギー／二〇世紀の生命主義／大正生命主義の諸相／仏教生命主義

第四章 「近代の超克」思想の展開……………153

一、マルクス主義と大衆社会……………154

大衆社会へ 新中間層の動向／日本のマルクス主義／年テーゼ

二、日本の使命……………162

思想史の分け目は 九二五年 「思想」 「日本精神」 背負／日本的なるもの形成 和辻哲郎「風土」 「統日本精神史研究」

三、「支那事変」と神かつた国体論……………171

戦時体制／農本主義革命／民族の精神革命／釈迦もキリストも天皇の赤子

四、「大東亜共栄圏」へ……………179

東亜新秩序声明／起つてしまったことは……………／多文化主義のバラダイス／「大東亜共栄圏」構想と八紘一宇／世界的立場と日本／世界的立場の破綻／西田哲学への裏切り 滅私奉公の哲学 日本科学の総力戦下の雑居性

第五章 戦後民主主義を超越……………199

一、敗戦、占領は、どう受けとめられたのか……………200  
配給された自由 配給された後進性／天皇の「人間宣言」／文藝者の「戦争責任」 戦争はどう扱われたのか、「ファンスム」対「テモクラン」／ホントウ、マンゴ、コエハ 白けてよかった

二、ヒューマニズムは戦争に同調した思想を撃てたのか……………216  
世代論―加藤周一―星蓮派―戦後ヒューマニズム 経験主義の戦後ノ表現の歴史性ノリアリスムの神話ノ戦後アナクロニズムノ「日本的なるもの」の行方

三、近代の総体を問う……………231

伝統の再編―岡本太郎ノ構造と歴史を組み合わせる 大正生命主義の末路―高見順「いやな感じ」ノ近代への呪詛―石牟礼道子「苦海浄土」ノ二〇世紀の懐疑論ノ生命への畏敬―シュワイツァー

四、知のシステムを問いなおす……………245

西欧近代への告発―モノ―「偶然と必然」 野間宏の応答ノ合理主義との格闘ノ知の編成を問うノ知のしくみを変える

あとがき……………255

参考文献……………257

## はしがき

一九世紀半ば、大英帝国が東アジアを攻略しはじめたことに危機を覚えた日本は、急いで国民国家を形成し、そのイギリスと結んでロシアと対峙しなから、世界史の舞台に躍り出ていった。二〇世紀への転換期には、「世紀」という西洋の時代区分をはじめて経験し、ヨーロッパやアメリカの新しい思潮をほぼ同時代的に受け入れながら、独自の思想文化を世界に発信しはじめた。

二〇世紀という時代区分は、日本思想史を考える上で、かなり有効だろう。たが、二〇世紀日本の思想史は、また一度も一人の手でまとめられたことかない。二〇世紀が終わって、一〇年が経とうというのに、誰もそれを試みていない。前半に限っても、事情は変わらぬ。

一九八〇年代に入るところから、日本文化を根本的に考えなおす様ざまな動きが起こった。それまで「封建制」とか「絶対主義」と考えられてきた明治期からの天皇制について、近